

豊橋市統計書

令和4年版

豊橋市

平和・交流・共生の都市宣言

私たちのまち豊橋市は、市民自治の精神に立ち、人や地域、世界の国々とのつながりを大切に、“すべての人とともに生きる”、気概と誇りをもったまちづくりを進めています。

市制100周年を機に、私たちは、先人の英知と情熱の歴史を受け継ぎ、核の脅威のない真の恒久平和と世界の持続的な発展に貢献するため、広い分野にわたる交流と国際協力の取組みに努めます。

また、多様な文化や生活・習慣への理解を深め、自らの役割と責任を自覚するなかで、互いに信頼し尊重しあう心を持ち、人が輝き安心して生活できる地域づくりに取り組みます。

心豊かで笑顔あふれる豊橋を次の世代に引き継ぐため、私たち豊橋市民は、一人ひとりが、未来への夢と高い志を持ち、“世界に開かれ、世界に友人をもつ豊橋”、“平和を希求する豊橋”をめざすことを決意し、ここに「平和・交流・共生の都市」を宣言します。

平成18年12月18日

愛知県豊橋市

は し が き

令和4年版「豊橋市統計書」をここに刊行いたします。

本書は、豊橋市の人口・産業・経済・教育・文化等の各分野にわたる基本的な統計資料を総合的かつ体系的に収録し、市勢の推移と現況を紹介したものであります。

本書が行政上の利用にとどまらず、民間における企業経営や学術研究、あるいは市民生活向上のための指針等の基礎資料として広くご利用いただければ幸いです。

編集に際しましては、なるべく従来の様式を踏襲し統計の継続性に考慮しつつ、最新性の追求にも努めてまいりましたが、なお不十分な点もあろうかと思っておりますので、各方面からのご指導とご意見をいただきまして、一層の内容充実に努めてまいりたいと考えております。

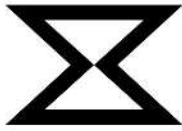
おわりに、本書の刊行にあたり貴重な資料をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年1月

豊 橋 市

利 用 者 の た め に

1. 本書は、豊橋市の各方面にわたる基本的な統計資料を収集し掲載したものである。
2. 資料は、令和3年度等の統計資料を主として収録したが、比較対照の便を考慮しておおむね過去5年間の資料も合わせて掲載した。
3. 資料は、各官庁、民間諸機関、庁内各課等から直接収集したもので、出所は各表の下部左端に掲げ、刊行物によるものはその書名を付記した。
4. 統計表中、説明を要する箇所は脚注をし、数値の単位については各表の上部右端に注記したが、一見して明らかなものは省略した。
5. 統計表中、「何年」とあるものは年間(1月～12月)、「何年度」とあるのは会計年度間(4月～翌年3月)を示し、「何年(度)末、何月末」または「何年何月何日」とあるものはその期日の数字を示す。
6. 数値の単位未満は四捨五入を原則とした。したがって合計の数値と内訳の合計とは一致しないことがある。
7. 数値は、資料収集時のものであり、本書発行後に確定し、変更のあった場合は次年度以降に変更する場合がある。
8. 統計表中の符号の用法は次のとおりである。
 - 「－」……………該当数値なし
 - 「…」……………資料なし又は不詳
 - 「0」……………単位未満
 - 「△」……………負数
 - 「x」……………数値の公表を差し控えるもの
9. 本書に収録した統計資料について、さらに詳細な資料が必要なとき、あるいは疑義がある場合は、各資料の出所機関又は本市総務部行政課統計調査グループに照会してください。



豊橋市徽章

豊橋市徽章は、旧吉田藩主が使用した千切を基礎としたもので、多年にわたり豊橋を表象してきたため、これを奨用して明治42年6月6日、本市の徽章としました。

市の花『つつじ』

昭和35年5月、市民愛市憲章推進協議会の前身ともいべき豊橋都市美協会が一般市民からのアンケートにより、市の花「つつじ」を制定するよう市に陳情、同年5月30日市議会の総務調査会でこれが了承されました。



市の木『くすのき』

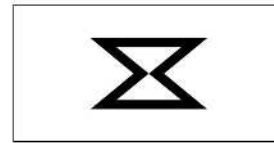
愛市憲章制定10周年を記念して市民愛市憲章推進協議会が「市の木」を制定しようと委員会を設け選考を進め、市民のアンケートで推せんが一番多かった「くすのき」を選び、市の賛意を受けて昭和48年4月20日、市の木に決定しました。

「くすのき」は常緑樹で、盛んな成長力と緑の美しさがあり、「進展する豊橋市の象徴の木として最もふさわしい」として選ばれました。



市旗

市民愛市憲章推進協議会から、市民の共通の理想と精神を総集した市旗を定めてほしいと市に陳情があり、昭和38年7月1日市旗制定を告示しました。
市旗は市章と同じく千切(ちぎり)を描いたものです。



豊橋市歌

豊橋市歌は、昭和31年市制施行50周年記念事業として制定されたものです。歌詞は全国公募を行い、総数298編にもおよぶ応募があり、詩人丸山薫をはじめとする審査員により奈良県の辰巳利郎氏の作品に決定されました。さらに丸山薫の補作を経て、作曲を古関裕而に依頼しました。

三	豊見 橋よ われ ら い ぎ 興 せ 都	文歴 化史 との 競 う 美 し き 映 え	いゆ にた しけ えき し流 のぶ 豊 川 古 田 城	二	豊見 橋よ われ ら い ぎ 業 都 れ	七装 彩い 虹も ここ か が 新 や け る	み山 のな りみ は青 き 夢を 三呼 河野 ほに と り	一	豊見 橋よ われ ら い ぎ 業 都 れ	仲脉 び打 ゆつ ゆく 若 力 た く ま し つ き	希太 望平 の洋 の歌 と潮 騒 く と ころ
---	--	---	---	---	--	--	---	---	--	--	---

豊橋市民愛市憲章

わたくしたち豊橋市民は

1. 心をあわせ美しい町をつくりましょう
1. よく働き豊かな町をつくりましょう
1. 愛情をもちあたたかい町をつくりましょう
1. きまりを守り明るい町をつくりましょう
1. 教養をたかめ文化の町をつくりましょう